

吉のお宮 日本最古天神 天照大神初降臨の地



# 興喜天満神社



本殿 [桜井市指定文化財]

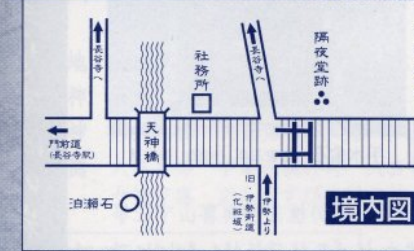
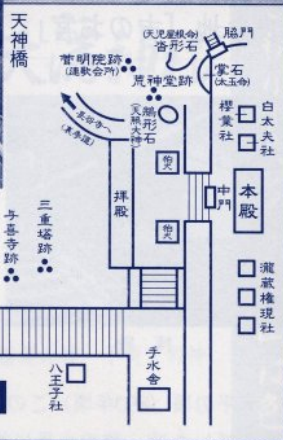


初瀬門前道。正面上に興喜天満神社の鳥居が見える

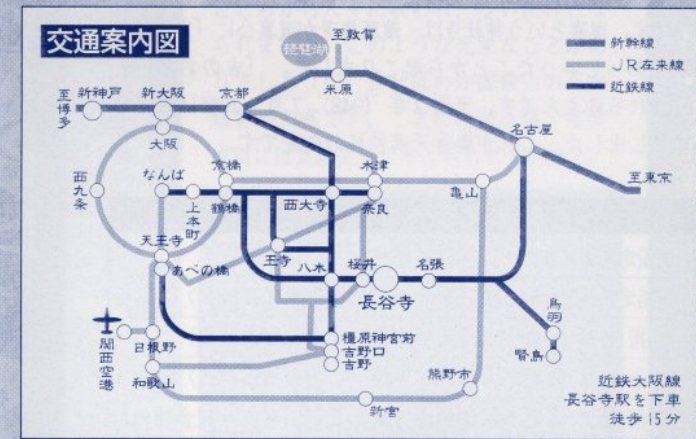


天神道石標

参拝のしおり



摂社・白太夫社 (右) と櫻葉社 (左)

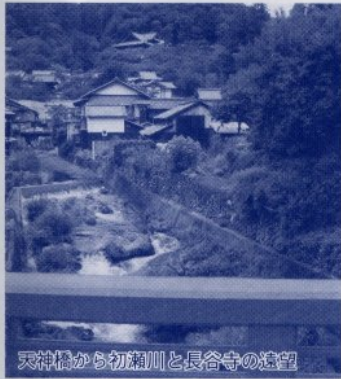


よきてんまん  
興喜天満神社

〒633-0112 奈良県桜井市初瀬14 社務所  
TEL / FAX 0744-55-2300



連歌橋を渡って裏参道から本殿へ



天神橋から初瀬川と長谷寺の遠望

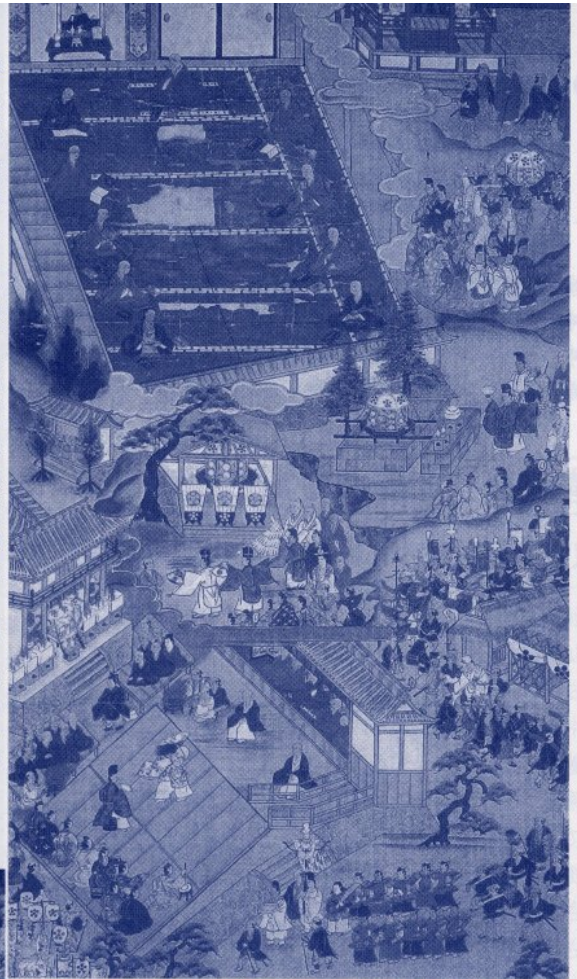


玉置庵跡



古代の幽邃な神社の姿をのこす境内

9月20日斎行の「初瀬まつり」の様子を描いたもの。かつては大祭の日に、連歌（左上段）や能（左下段）が奉納された。現在は10月第3日曜日に行われる。



「與喜天満宮祭礼図」  
(江戸時代) 長谷寺・蔵

境内のこま犬、高さ3m余もある  
慶応3年(1867)奉納



はつせ川はやくの世より流れきて名に立らわたる瀬々の岩波・本居宣長・

## 良き地「吉のお宮」



拝 殿



手水舎石 慶安三年（1650）奉寄進

寛平の頃（890年頃）この山に一人の樵夫が與喜山で仕事をしていた時、彼の小屋に誰かが「これを祭れ」といって何かを投げました。そこには木像が落ちていました。樵夫はその頃、長谷寺に菅原道真公が参詣に来られていたので、像は公の御作として、大切にお祭りしました。その像が神社に現存する木像神像と伝えられています。

また、この初瀬の里に神殿大夫武麿という修行を積んだ高德の人がいました。天慶9年（946）の10月18日、ふしぎなことにこの武麿の自宅の前の石の上に高貴な翁が座っていました（現在の切石御旅所の地）。翁が長谷寺へ参詣に向かうと武麿もついて行きました。翁は川で禊ぎ（現在の中の橋詰め御旅所の地）をされ、瀧倉権現社に参られました。すると急に黒雲が湧いてきてその翁を包み、翁は立派な装束姿となり「私は右大臣正二位天満天神菅原道真」と名乗り、「私はこの良き山に神となって鎮座しよう。」と語って、言葉の通り神鎮まりました。これが與喜天満神社のはじまりです。與喜という神社号は、瀧倉権現が道真公に「良き地」だとおっしゃったことから起こりました。「吉のお宮」と呼ばれるゆえんです。天曆2年（948）7月、武麿は社殿を建立しました。これが與喜天満神社の創祀です。

### 與喜天満神社の文化財

国指定天然記念物	與喜山暖帯林
市指定天然記念物	切石御旅所の紅梅（江戸時代）
市指定文化財	木造天神座像（鎌倉時代）
市指定文化財	木造天神座像（桃山時代）
市指定文化財	木造神像6体（平安～鎌倉時代）
市指定文化財	鉄湯釜（桃山時代）
市指定文化財	本殿1棟附棟札1枚（江戸時代）

はつせ川井手越す波の岩の上におのれくだけて人ぞつれなき・藤原良経

## 吉のお宮 日本最古天神 與喜天満神社

天照大神初降臨の地

長谷寺鎮守聖廟・地主の神

長谷に参らば 天神も参ら 天神み寺の地主神  
(宮司謹作)

- 鎮座地 奈良県櫻井市初瀬 與喜山（大泊瀬山・天神山）
- 主祭神 菅原道真公
- ご祭神 天照大神 大倉姫神（延喜式式内社・鍋倉神社）
- ご神徳 入試合格・学業成就の神 大吉福運の神 子育ての神 女性守護・えんむすび良縁の神

### 與喜天満神社ご由緒

#### 菅原道真公を祭る日本最古天神

長谷門前町を歩むと、正面に赤い鳥居の立つ緑濃い常緑樹の山容が、大きな存在感をもって参詣者を迎えてくれます。このお山が現在、国の天然記念物に指定されている與喜山で、その中腹に鎮座されているのが、学問の神として知られる菅原道真公をご祭神とする與喜天満神社です。

菅原道真公のご先祖・野見宿禰は、ここ初瀬の出雲のご出身で、初めは土師氏と称しました。道真公にとって初瀬は遠祖からのふるさとだったのです。朝廷から学者として信任され、道真公は右大臣まで累進しましたが、太宰府に左遷されて亡くなりました。しかし、道真公は現世では不幸な人生を閉じられましたが、生前のご功績とその至誠のこころから人々に敬われ、ついに神となりました。このような光栄なことがありますか。当社はわが国最古の天神信仰のお宮です。ことに入試合格・学業成就には靈驗あらたかといわれています。



いせみちの道標



赤鳥居の手前が旧・伊勢街道（右へ化粧坂）

こもりくの泊瀬の山は色づきぬ時雨の雨は降りにけらしも・万葉集

## 「源氏物語」と玉鬘のいわれ

たまかづら

源氏の恋人の夕顔の遺見だった玉鬘は、筑紫の国で美しく成長していました。あることがあって、京に上りました。その秋、靈験を頼んで長谷寺に参詣した時、偶然にも右近に再会したのです。実は右近も玉鬘に会いたいために、たびたび初瀬詣でをしていたのであります。二人は喜びを歌に託して詠み交わしました。

二本の杉の立ちどを尋ねれば古川野辺に君をみましや (右近)

初瀬川はやくのことは知らねども今日の逢ふ瀬に身さへ流れぬ (玉鬘)

右近のうたった古川野辺は、連歌橋の架かっている付近の初瀬川をいいます。



連歌橋にある古川野辺の銅標

初瀬にますは與喜の神垣・竹林抄・

うかりける人や初瀬の山桜・芭蕉・

## 連歌と能楽 — 日本文化の源郷 —

長谷寺から、與喜天満神社の境内にいたる途中、初瀬川に架かる朱塗りの橋があります。これが「連歌橋」で、当社にて連歌をおこなう人々が渡ったので、その名が呼ばれるようになりました。鎌倉時代の末頃から当社では、「天神講連歌会」と呼ばれるほど連歌が盛んで、わが国の文学史に残るものでした。連歌のバイブルともいわれる連歌撰集『竹林抄』(宗祇篇・文明八年<1476>成立)にも、「初瀬にますは與喜の神垣」という句が所収されているほどです。

また中世芸術を代表する芸能・能楽も、また当社と深いかわりがあったのです。能楽師の金春禅竹はその著書『明宿集』に、自分たちの祖先・秦河勝が初瀬川の河上から流れてきた壺の伝承を記し、

また、與喜天満神社の神主が、昔、泊瀬與喜の宮のあいます大夫、神慮奇特の人なりしが、その歌に云「泊瀬山谷の埋もれ木朽ちずしてこん春にこそ花は咲きつげ」(『明宿集』より)

と、神秘的な和歌を詠んだことが記されています。当社は能楽の発祥の一つの聖地と考えられているのです。当社は古代から中世にいたる、文化の源郷なのです。



「與喜天満宮祭礼図」  
仁王門前にて能奉納

### 主な年中行事

1月1日	元旦祭
2月17日	祈年祭
6月30日	大祓式(夏越し)
10月第3土曜日	大祭宵宮祭
10月第3日曜日	大祭(初瀬まつり)
12月20日	新嘗祭
12月31日	大祓式(年越し) 除夜祭

### 月次祭

毎月1日、20日午前11時より。  
※ご自由に参列できます。

### ご祈禱のご案内

入試合格・学業成就・  
家内安全・厄除・子育て・  
えんむすび・良縁・その他、  
毎日執り行なっています。

## 大和国の第二の大祭「初瀬まつり」

10月の第3日曜日、初瀬の門前町は、沸き立つように賑わいます。これは、與喜天満神社の大祭で、通称「初瀬まつり」と呼ばれています。近世の奈良では春日大社のおん祭りに次ぐ盛大な祭典として知られていました。本来は9月20日に行われましたが、現在は太陽暦の10月となり、20日に近い第3日曜日に毎年祭典が斎行されています。

祭礼日の9月20日は、天慶9年(946)、道真公の神霊が神となりこの初瀬の地に顕現された日であり、神社から下った神輿は、御旅所にとどまるなど、神の顕現の道を再現するという宗教的にも貴重な祭典です。



古神輿  
徳川家光  
の奉納  
三代将軍



神輿の渡御

## 天照大神初降臨地と式内社・鍋倉神社

### — 女性神の信仰 —

與喜山は、古くは大泊瀬山と呼ばれ、古代大和の国では最初に太陽の昇る神聖な山としてあがめられました。『万葉集』では初瀬(長谷)にかかる枕詞「隠り国」一山に囲まれ隠っているような地一は、この自然のお姿から生まれたのです。万物の生命のみなもとである太陽と、母なる慈愛を神としてあがめたのがアマテラスという女性神で、天上からこのお山にはじめて降臨されたと伝えられています。現在の本殿の向かって左に古代信仰のままに磐座(鵜形石)に祭られているのが天照大神で、女性の守護神として信仰されています。一またその後方の鍋倉山には、延喜式式内社の鍋倉神社が磐座に祭られています。ご祭神は大倉姫神、別名・下照姫と申し上げ、『古事記』の世界では大国主命の娘で、その美しさは、衣を通して地を照らすほどであったといわれています。

当山にはこのような女性神の信仰が古代から息づいていたのです。



古代の磐座—鵜形石(左・天児屋根命)  
磐石(上方・太玉命)



古代の磐座—鵜形石(天照大神)

春ならで色もあざかりこがるるは鍋倉山の薪なりけり・相模集・